

## はじめに

医学部教育のなかで、難しい尿細管の話やHenderson-Hasselbalchの式を教えれば教えるほど、学生は苦手意識をもつようになります。ところが臨床現場では、水・電解質・酸塩基平衡の治療が、患者の命に直結します。医師になってはじめて本格的に勉強しようかと思うのですが、残念ながらわかりやすい本はほとんどみつかりません。Henderson-Hasselbalchの式はやっぱり頭が痛くなります。

私自身も研修医時代は水・電解質・酸塩基平衡についての知識は皆無でした。ただ日常診療を続けるなかで、同僚あるいは後輩からたくさんの方の相談を受けました。そして1例1例を解決しながら、最近ようやく理解できるようになってきました。

いくつかの重要なルール（原則）があること、それに従ってアプローチしていれば大筋は間違いがないことに気がつきました。このルールが十分理解できていなかったのです。

今回、それらのルールと理論的背景を明確にしたいと思います。一読していただくとこれまで何が壁であったのかに気がつくことでしょう。従来の学習スタイルを大きく変えていますので、最初は戸惑うかもしれませんが、臨床力が確実に身につくように工夫してあります。特に、細胞内液・外液で最も重要な「pH（酸塩基平衡）」と「浸透圧」でまとめていますので、第1部のpHから読み始めても、第2部の浸透圧から読み始めてもよろしいですが、両者を読破することをお願いいたします。

古来、「水を制するものは、天下を制する」といわれていますが、「水を制するものが、医療を制する」ことも真実であります。皆さんもぜひ「水の魔術師」を目指してください。

平成19年3月（長久手古戦場から）

今井裕一